第３章　研究活動成果の普及と情報発信

研究活動としてのモビリティウィーク＆カーフリーデーふくい２００９の開催情報の発信、及び活動結果の情報発信を通じて、広く県民に車に頼らない移動の重要さと、きっかけづくりとを図るための試みを行い、各方面からその取り組みに対する高い評価を得ることができた。

３－１　事前広報での官民連携による情報発信

事前広報として、実行委員会参加のバス電車事業者により県内各駅へのポスター掲示や、車内吊り、などによる広報を行った。

また、福井市市政広報の１ページで特集を組んでもらって市民全体に広報するとともに、（福井市、越前市、鯖江市）市役所職員用掲示、福井市内公民館、地元新聞紙（福井、県民福井）へのパブリシティを行った。

さらに、子どもを主体としたイベントは、小中高校などへ直接の広報を行った。モビリティクエストは小学校のほか児童館へチラシを配布して呼びかけた。

（平成21年9月13日福井新聞より）

車社会見直しを

福井駅西口など

鉄道やバス　乗り継ぎを案内

自転車も無料貸し出し

とくに、作文コンクールで、作文募集テーマを中高校の夏休みの作文テーマに取り上げてもらい数多くの申し込みを得ることができた。ＦＢＣ福井放送と連携して、環境省の地球温暖化防止に係る国民運動におけるＮＰＯ・ＮＧＯ等の民間団体とメディアとの連携支援事業に応募し、スポット広告などで、一般市民にも呼びかけを行った。つまり、MW&ＣＦＤの事前告知のＣＭや、作文結果を使ったＣＭを作成して、放映した。

1）テレビCM①

種　　別：テレビ１５秒スポットCM
タイトル：モビリティウィーク作品募集　告知
発 信 日：平成２１年８月１３日～８月２８日

【CMコメント】
「モビリティウィーク・カーフリーデーあい　作品募集！」「地球環境にやさしい公共交通社会」をテーマに中高生からの作文を募集しています。マイカーの利用を控え環境にやさしい交通を目指しましょう。詳しくはＦＢＣで検索。

種　　別：テレビ１５秒スポットCM
タイトル：モビリティウィークイベント告知
発 信 日：平成２１年９月１０日～９月１９日

これらの広報活動は、子どもたちへの公共交通への関心を高めにはとくに効果的だった。

また、モビリティウイークの一週間に及ぶイベントの特長を活かして、前半の平日３日間を市役所市民ホールでの広報主体のイベント、後半の休日の４日間を福井市（県）の交通結節点であるＪＲ福井駅西口広場をメイン会場としたイベントを実施し、最終日のカーフリーデーの広報もあわせて実施した。カーフリーデーは、それに加えて一番人の集中する「アップルロード」を人と自転車に開放して、通りかかった人にもアピールする方法をとって、大成功を収めた。

３－２　公共交通の作文・小論文受賞作集の発行を通した情報発信

「かしこい公共交通の使い方」という題目で中高校生に募集をかけたところ約 680 通の応募があった。このことは 680 人、さらには 680 の家族に対し、クルマと公共交通について向きあっていただいたことになる。このうち、入賞６作品、大賞１作品の作品集を製本化して参加された学校に一定数を贈呈した。この取り組みは、作品募集、当日の会場、その後の報道、作品集の作成により多くの人の目に触れることになり過度に依存した車社会への問題提起としての大きな効果になった。

今後、中高校生は自動車免許を取得し、マイカーを使用することになるが、この段階で自己啓発としての「かしこい公共交通の使い方」あるいは「かしこいクルマの使い方」を学ぶことは、将来の公共交通のあり方にも大きな影響を与えるに違いない。

●作品集配布先一覧

・ＲＯＢＡ	８８部（会員配布用５８部＋予備３０部）
・行政	２０部（福井県内１７市町＋福井県１部、県教育委１部、市教育委１部）
・実行委員会	２４部（TMO、京福バス、福井鉄道、福鉄バス、えち鉄、ＦＥPS、エコプラン、福大川本研究室　計８団体に各３部づつ）
・入賞者	７部（７名×１部づつ）
・選考委員会	４部（２名×２部づつ）
・県バス協会	１部
・ＦＢＣ	３部
・大学	３部（福大：川上研、野嶋研　県大：浅沼研　各１部づつ）
・各中高校	３５０部

作品集の内容は以下のとおりである。

モビリティウィーク＆カーフリーデーふくい２００９作文・小論文コンクール
優　秀　作　品　集

モビリティウィーク＆カーフリーデーふくい２００９作文・小論文コンクール開催にあたって

モビリティウィーク＆カーフリーデーふくい実行委員長　　内　田　桂　嗣

本年９月モビリティウィーク＆カーフリーデーを実施するにあたり、公共交通の利用促進にスポットを当てた企画ができないものかと実行委員会で議論した結果、今現在いちばん公共交通を利用している中高校生に意見を聞くことからスタートしようということで、「かしこい公共交通とクルマの使い方」というテーマを決定しました。

モビリティウィークは「移動」ということについて考える週間（９月１６日～２２日）としましたが、特にマイカーに焦点を当てています。また同時に徒歩・自転車・路面電車・バス（私たちは頭文字をとってホ・ジ・ロ・バ交通と呼んでいます）といった移動手段の使い方を考えようという試みでもあります。

この『かしこい』という点がミソで、クルマと公共交通を上手に使いこなして環境や家庭内経費削減に貢献する手立てを一人ひとりが考えるというものです。そしてその結果、中高校生自らが実践していることやあるべき姿を論文にして公表することにより、クルマ社会にどっぷり漬かりきった大人たちに気づきを与え、啓発のキッカケになることを願っての作文・論文の募集でした。

果たして、応募が来るかどうか心配しましたが、６８１もの作品の応募をいただきました。応募された生徒の皆さんには心から御礼を申しあげます。また、内容的にも多くの質の高い作品のなかから大賞１作品、入賞６作品をシンポジウム＆トークショーの中で表彰をいたしました。

主催者としては中高校生の声を出来るだけ多くの人に届けたいと、ここにその７作品を編集いたしました。最後に選考委員長川本義海福井大学准教授、ならびに選考委員としてご協力いただきました藤島高校前田高宏先生、高志高校松田透先生にはご苦労を賜りましたこと心より御礼申し上げます。

ＭＷ＆ＣＦＤ　作文・小論文コンクール　入賞作品一覧		
モビリティウィーク＆カーフリーデー大賞		
路面電車と電気自動車のハイブリッド開発	仁愛女子高校１年	赤谷恵理（あかたに　えり）
ＦＢＣ賞		
地球に優しい公共交通社会	至民中学校３年	飛山　遙（とびやま　はるか）
えちぜん鉄道賞		
公共交通機関をより利用しやすく	高志高校　１年	五十子智陽（いがっこ　ちはる）
京福バス賞		
レッツゴーバスデー	社中学校　１年	前田依未（まえだ　えみ）
福井鉄道賞		
通学を通して	藤島高校　２年	中山翔太（なかやま　しょうた）
まちづくり福井賞		
交通機関の利用向上について	足羽中学校３年	川上　陽（かわかみ　みなみ）
ふくい路面電車とまちづくりの会賞		
電車に乗ってみえるもの	高志高校　１年	谷口絵里奈（たにぐち　えりな）

モビリティウィーク＆カーフリーデー大賞

「路面電車と電気自動車のハイブリッド開発」　仁愛女子高校１年　赤谷恵理

家族で移動する時は毎回自動車を使用します。勿論ガソリン車です。父が運転する自動車の前をバスが黒い煙を出しながら走るのをよく見かけます。父に「このクルマからも黒い煙をました。ところが「ＣＯ２は排出している。これが問題なんだ」と話してくれました。私には何が厄介なのかあまり分かりませんが、いまこそ環境対策が必要な時期であることは十分理解しています。そこで、電気自動車の開発はかなり進んでいるようで、間もなく市販されるように聞いています。

次に路面電車の開発、これはどうなっているのでしょう。私の学校の前を路面電車が走っていますが、なんとなく重苦しそうに見えます。今後の路面電車は細い道もすいすいと走っていく、そんな時代がこな

いでしょうか。路面電車も電気自動車のように、いつでも充電できるバッテリーを搭載し、充電は太陽光発電や地面からの誘導で常時充電するようにすれば、道路上空の電線がいらなくなります。こうすれば、道路も余分な電柱を立てずにすみ道路全体が広々と使えるのではないでしょうか。「路面電車が走ると、道路が混雑する」と聞きますが、思い切って、路面電車が走る道路は、路面電車・歩行者・自転車専用道路とし、自動車は通行禁止とします。ケースによっては電気自動車は通行可とします。ここまで環境対策を徹底してはいかがでしょうか。路面電車の線路は都市部の隅々まで張り巡らせ、ちょっとしたお買い物でも利用できるようにするのです。老若男女問わず便利になるように。

ちょっと残念なことは、都市部から外れる方々との差がつく事。この部分においては、電気自動車バスが頑張れないでしょうか。

路面電車と電気自動車のハイブリット開発で、いつまでもきれいで住みよい福井市であってほしいと思います。また、これが全国の中小都市の見本となればこれもまた嬉しいことです。

ＦＢＣ賞

「地球に優しい公共交通社会」　　至民中学校３年　　飛山　遙

私の家では、車の利用についてよく考えます。理由は、私の父は自動車学校の先生なので車の事にはとても厳しいからです。車は、便利でいい所もあるけど、その反面に環境問題や交通事故がおこっているので、十分に気をつけなければなりません。近頃、テレビで飲酒運転の事故についてやっていました。お酒を飲んだにもかかわらず、運転するなんておかしいと思うし、とても危険です。

私の家では、祖父は車を運転できるけど、宴会などに行く時には飲酒運転にならないように行きは私の母が車でその場所におろし、帰りはちゃんと迎えに行きます。母は、面倒だけど、飲酒運転でつかまったり、事故になったりするよりはいいと言っていました。

その他にも、ガソリンが値上がりをしたので、あまりガソリンを使わないように、近くの店だったら自転車で行くようにしています。自転車を使うことで運動不足も解消されるので一石二鳥です。

先生にもらった資料の中で一番驚いたのは、車のＣＯ２の排出量がバスや鉄道比べて断トツに多いということです。鉄道は車よりも体積が大きいので、その分、とてもＣＯ２出しているイメージがあったから、信じられませんでした。

私の家には、合計四台の車があります。四台あったらＣＯ２は、かなり出ます。祖父はグラウンドゴルフをやっていて、遠くの大会に行くときは、一台の車に、たくさんの人を乗せていきます。そうすれば、少しはＣＯ２の排出量が少なくなります。こんな感じで、車について、よく知り、車と向き合っていきたいです。

えちぜん鉄道賞

「公共交通機関をより利用しやすく」　　高志高校１年　　五十子　智陽

私は、今春高校に入学し、電車通学をするようになりました。少し大人になったような気がして、うれしかったです。しかし、毎日通学しているうちに、わかってきた事があります。

まず、朝夕の車内はいつも満員で、座ることができなくて、乗るのが嫌になります。お年寄りだったら本当に困ると思います。

また、乗りたいと思う時間に電車やバスがないことがあります。「この電車を逃がしたら、次の電車ま

で一時間も待たなければいけない」から、学校から駅まで重い荷物を持って必死に走ったこともあります。そんな時、「電車通学は面倒だ」と感じます。

また、私の友だちの中には、家の近くに電車が通っておらず、電車を利用したくてもしにくい人もいます。

このような不満を解決していけば、公共交通機関を利用する人は、もっと増えてくると思います。

例えば、電車の本数を増やしたり、車両の数を増やしてもらえば、利用したい時間に電車があって都合がよく、また車内の混雑も緩和できると思います。また、電車の時刻に合わせて地域バスを運行したりして、連携プレーをしてもらいたいです。

また、車内の広告が毎日楽しいものだとうれしいです。例えば、学校新聞だったり、大人だったら、スーパーの安売り情報だったり。またラジオ放送が流れたりするのもおもしろいと思います。

私たち利用する側も、不満を言うだけでなく、マナーを守り、通勤・通学など公共交通機関を、できるだけみんなが気軽に、快適に利用できるようになるといいなと思います。そのことが、車の必要にならない社会につながっていくと思います。「クルマ社会」を脱する第一歩です。

京福バス賞

「レッツゴーバスデー」　　社中学校１年　　前田　依未

地球温暖化防止のため、あなたは、どんな事をおこなっていますか？マイバッグの使用、電気のつけっぱなしをやめる、車の使用を減らすなど、たくさんの事が挙げられます。

車の使用を減らすことには、車以外の乗り物を使うこともふくまれます。例えば、バスを使うことです。このことを実践するために、私は「レッツゴーバスデー」というアイデアを考えました。このキャンペーンは、毎月５日にバスを乗ることをすすめるものです。だから言いかえると「レッツ５バスデー」になります。実施する日にちを知ってほしくて、このような名前にしました。この「レッツ５バスデー」は、毎月５日に月ごとに変えたシールをバスに置き、そのシールを１２枚集めると福井の特産品がもらえるというキャンペーンです。月ごとに色を変えれば、一度にたくさんのシールをとることもなくなるので、良いと思います。また、福井の特産品をいろんな人に知ってもらうためにも、このキャンペーンはすごく役立つと思います。

もう一つ考えたアイデアは、バスに乗った人が、身近にいる親・兄弟・友だち・先生などに「レッツ５バスデー」を話すという方法です。そして、その話を聞いた人もまた、そのキャンペーンについて、だれかに話すという方法です。こうすれば、多くの人に「レッツ５バスデー」を知ってもらえると思います。

私自身も、バスに乗って楽しかった思い出があるので、そのような経験を他の人に話すことによって、バスに乗りたくなるのではないかと思います。

地球温暖化防止のため、あなたはどんな事をおこなっていますか？マイバッグの使用、電気のつけっぱなしをやめる、車の使用を減らすなど、たくさんの事が挙げられます。その中に、バスの使用を増やすということも含めたいと思いませんか？

福井鉄道賞

「通学を通して」　　藤島高校２年　　中山　翔太

僕は現在、福井鉄道を毎朝利用している高校２年生です。中学校のころから、家から遠いところにある

学校に通っていたので、今年で電車通学歴５年になります。妹も同じように電車で通学しているので、福井鉄道とは、これからも長いつきあいになりそうです。

しかし、最近、福井鉄道の将来が危ない、というようなニュースをよく目にします。福井鉄道を通勤、通学に利用している人にとって、福井鉄道は無くてはならない存在です。ですから、これまで福井鉄道を利用してきて、改善してほしいことをいくつか書いていきます。

まず、乗り降りの際の段差を無くしてほしいです。若者や学生にとっては別にそれほど苦ではありませんが、お年寄りや障害者の方にとっては、間違いなく辛いことだと思います。特に降りるときに時間がかかり、周りの人は、しょうがないと分かっていながらも、少しイラッとしてしまいます。駅員の態度が悪いときがあるのも気になります。

さらに、一番直して欲しいことは、車内に時刻表がないことです。目的地に何分に着くのか、何分で着くのか、今何時なのかが分かるように、また、無人駅に時計がないので、それもぜひ直してもらいたいことです。

こういった問題点を見つけるために、定期的に駅員が客として乗ってみるべきだと思います。

福井鉄道は、二酸化炭素の排出量が少なく、地球温暖化防止に大いに役立っており、いまでは国内で数えるほど少なくなってしまった路面電車であり、福井県民にとって、大きな誇りです。だからこそ、車よりも電車と思えるくらい、もっと便利で利用しやすいように変えて、未来の子供たちにも受け継いでもらえるほど、長く走り続けてもらいたいです。

まちづくり福井賞

「公共交通機関の利用向上について」　　足羽中学校３年　　川上　陽

現代は車社会といわれています。１８７０年自動車の発明により、人々の生活は格段に便利になり、豊かになりました。今や自動車の販売数は、経済の状態を知る目印にされています。その一方、排気ガスの様々な有毒性が明らかになり、特に地球温暖化の原因の二酸化炭素は大きな社会問題となっています。私は、車の使い方を見直すことで、公共交通機関を利用する人が増え、私にとって住みやすい社会が作れると思いました。

現在、「ノーマイカーデー」など車を使わない運動が盛んに行われています。そこで思い切って市街地には、低公害型のコミュニティーバスが行き来し、また、介護タクシーも充実させます。地下駐車場を利用して、福井初の地下鉄の導入をします。そのためには、車より便利で楽な移動手段にしなければいけませんが、思い切った事も必要だと思いました。また、「市街地」を電車の駅単位としたり、乗車時間を短縮してもいいと思います。鯖江や武生に行きたい場所があっても、今は電車で時間がかかり、遠く感じます。しかし、１５分くらいで行けたら気軽に電車に乗れると思います。

次に、簡単に車を買えないようにしてはどうでしょう。車の免許を難しくしたり、値段を上げたりして、高価な乗り物にします。また、昨年一年間の交通事故での死亡者は５０００人を超えています。車に乗る機会が減れば間違いなく事故の数も減ると思います。子供の頃から車の怖さを教育し、「車を持たない運動」をすれば、将来、車の数は減少すると思います。

車は、とても便利なものですが、できるだけ公共交通機関を利用した方がいいと思います。バスや電車には決められた発車時刻があります。時間に遅れないよう、余裕を持って支度をします。この余裕こそが、本当の意味での豊かな人生につながるのではないかと思いました。

ふくい路面電車とまちづくりの会賞	
「電車に乗ってみえるもの」	高志高校１年　　谷口　絵理奈

大変だった高校受験を乗り越えて、私はこの春から市内の高校へ通っています。家の人と相談して、私は友だちと同じく電車で通うことになりました。

初めての電車通学は、正直不安でした。朝は車で行くより３０分早く家を出なければいけないし、いろいろな所からいろいろな人が乗ってきます。「車で行った方が楽そうだなあ。」そう思っていました。

しかし、電車通学を始めて５ヶ月、今はもう、そのような気持ちは全くありません。わたしには特に二つの理由があります。

一つは、いろいろな人と話しながら通学できること。電車には、同じ中学の友だちや同じ高校の友だち、先輩方など、たくさんの人が乗ってきます。そんな人たちと、学校での出来事や昨夜見たテレビの感想など、他愛のない話をしながら時間を過ごせます。とても楽しいです。

もう一つは、温かい気持ちになれること。ある日、私が部活帰りに電車に乗ると、もうすでに車内は満員で、端の方に立って乗ることにしました。すると、しばらくして、今度は年をとった一人のおばあさんが乗ってきました。「大丈夫かなあ。」そんなことを思っていると、若い女性が「ここの席どうぞ」と言って立ち上がったのです。私は、心が温かくなるような感じがしました。おばあさんは、とても嬉しそうでした。これ以来、私は、あの女性を見習って、席を譲るようにしています。

電車に乗ると、いろいろな発見があります。この二つ以外にも、もっともっと電車の良いところを見つけて、多くの人に紹介したいです。一人でも多くの人が利用してくれると嬉しいです。季節はもうすぐ秋、電車の窓からも、また違った新たな発見が出来そうです。

作品集の発行に寄せて

選考委員長　福井大学大学院准教授　　川本　義海

２００９年9月１６日から二二日までの６日間、クルマ以外の移動手段について考える「モビリティウィーク＆カーフリーデー」が福井で開催され、その中の一企画としておこなわれた中学、高校生の作文・小論文コンクールには県内から６８０人を超える生徒の皆さんからの応募をいただきました。テーマは「クルマと公共交通のかしこい使い方」。まだ運転免許を持たない中高生の立場から、普段思っていること、感じていること、またさまざまな具体的アイデアが数多く提示、提案されました。

私達の暮らしはクルマなしではほとんど成立しません。とくに福井は自動車王国と言われるぐらいのクルマ社会です。しかし一方では公共交通の利用者は減少傾向にあり、その維持はもちろん将来的には存続まで危ぶまれるまでになっています。また環境問題やエネルギー問題は全地球的な課題にまでなっています。このような状況を目の当たりにして、このままの交通環境ではいけないという問題意識や改善に向けた行動がすでにあちこちに芽生えています。将来を担う若い生徒の皆さんがこのコンクールを契機に交通環境について真剣に考え、社会に向けてメッセージを発することは大変心強く、また意義深いことです。

本文集は応募いただいた６８１人の生徒の皆さんから贈られた明るく希望に満ちた将来へのメッセージです。ともに未来を切り開き生きていく同志の心に寄り添って読んでいただければ幸いです。

審査を終えて

藤島高校　前田　高宏

今年５月のＮＰＯ代表高畑英樹さんの死は、私にとって大きな衝撃であった。自ら障害者で、公共交通機関の発展に尽力していた高畑さんが、交通事故で亡くなったのは、この福井の現状を象徴しているように思える。地域で当たり前に生活するという彼の夢を踏みにじられた思いである。

考えてみれば、この状況は近い将来を暗示しているのではないか。高齢者の運転する車が高齢者の生命を奪う、そんな恐ろしい自体が目の前に迫っているのだ。自動車に依存してきた人々は簡単に車を手放せず、高齢でも車に乗り、事故を多発させるであろう。今回の作文を読んでも、運転できない高校時代から、車依存が確立しているのがわかる。こうしてクルマ社会は加速していく。

こう言うと、自動車の技術の進歩に期待する向きがあろう。しかし、自動車は「個」の形態の最たるものであるので、容易に数が減っていったり、他人と協調して同じ行動をとって同乗するようには進んでいかないだろう。だから、先述の予想をふり払うことはできないのだ。

そんな中での光明としては、作文で挙げられた「カーシェアリング」と「えちぜん鉄道の取り組み」だろう。一旦「個」を認めた上で、新たにコミュニティを作る方向である。簡単に言えば「動くコミュニティ」への模索である。車や交通機関の周りに、それにつながる人々を集め、交流を深めていく中で、新たな地域社会ができないか。そのままでは、バラバラになる人々を、同じ乗り物に乗るということでつなげていくのである。そのためには、明確な経済性と心理的充足感が必要だろう。そこに来ることが「少し得する」こと、我慢や無理をするのでなく、自然と足が向くサービス。その積み重ねが、少しずつ住みよい環境を作っていくのだろう。そうなってこそ、高畑さんの笑顔を再び見ることになるのだろう。審査を終えて、そんな気持ちにさせられた。

編　集：（ふくい路面電車とまちづくりの会事務局）　三　輪　裕　一

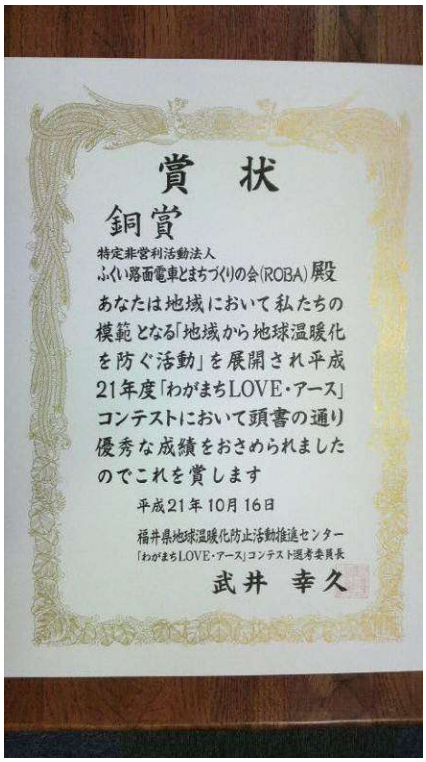
３－４　「わがまちＬＯＶＥ・アース」コンテストを通した情報発信

「わがまちＬＯＶＥ・アース」コンテストは、全国で展開している環境省「温暖化対策『一村一品・知恵の環』づくり」事業として福井県で実施しているものです。県内の地域で進めている地球温暖化防止活動を掘り起こし、それらの活動を県内に広めていくと同時に、県代表となった活動は全国にアピールしていきます。

> 地球温暖化は今、どうなっているのか？　これから地球の未来はどうなるの。
> 考える時代から行動の時代に入っています。地球温暖化問題に対処するには、私たちが今何をすべきか考えるとともに、福井県内で先進的にすすめている取組みを全国にアピールしていくコンテストを開催します。

ＲＯＢＡは事前に選抜された６団体の一つとして参加し、内田会長が発表しました。６団体が発表した後、会場に集まった１００人を超える各団体及び地域の関係者などが投票した結果、ＲＯＢＡは「銅賞」を獲得しました。「金賞」はみくにまちづくり協議会でした。

講評をされた先生は、「ＲＯＢＡは地道に（啓発）活動を行っている。だが、なかなか浸透していないのが現状。しかし、クルマからのＣＯ２の排出量は全体の１割。政府が打ち出している２５％削減を達成するにはクルマに手をつけなければ不可能。それを今日覚えて帰って欲しい。」と、私たちの想いをきっちり代弁すると同時に、ＲＯＢＡに対して高い評価を下さいました。



銅賞の賞状（左）　表彰式の様子(右上)　司会からインタビューを受ける内田会長（右下）

わがまちＬＯＶＥアースのホームページで紹介されている、ＲＯＢＡのモビリティウィーク＆カーフリーデーふくい２００９の活動内容。

http://www.stopondanka-fukui.jp/wagamachi/sys/index.php?e=23

わがまちLOVEアース WebSite::特定非営利活動法人ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)　Page 1 of 4

わがまちLOVEアース

2009年県選考会 動画公開中! クリック

「あ、エコの芽が育ってるよ」

メニュー

わがまちLOVEアース 新着情報

わがまちLOVEアース 事業概要

2009年の 参加団体紹介

2009年の 県選考会の様子

2010年大会への お申込のご案内

わがまちLOVEアース 2008

2007 わがまちLOVEアース

リンク

ストップ温暖化 大作戦 ストップ温暖化「一村一品」大作戦 あのエコ、このエコ、大集合。

LOVE・アース・ふくい 福井県地球温暖化防止活動推進センター

<<次の記事　前の記事>>

特定非営利活動法人ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

「モビリティウィーク」&「カーフリーデー」ふくい2009

クルマをおいて ホジロバ交通で街にでよう!

Improving City Climates 都市の気候改善

一人ひとりの移動の方法について、クルマに頼らずホ(歩行)ジ(自転車) ロ(路面電車・電車)バ(バス)による移動を勧め、CO2削減に寄与するキャンペーンです。

「モビリティウィーク」

9月16日～22日の7日間をモビリティウィークとし、クルマに頼らない移動を一人ひとりが考え行動する週間です。

①「通勤にクルマを使わない日」「徒歩の日」「バスの日」「電車の日」「自転車の日」を各日に設定、各種イベントを行ない、クルマに頼らない「ホジロバ交通」イベントとしました。公共交通を利用するキッカケとして、バス、電車の運賃の割引を行ないました。またゲームを通じて家族でバス・電車の乗車体験をしてもらいました。

「モビリティウィーク&カーフリーデー」の案内

モビリティセンターでゲームの打合せ

②JR福井駅西口に「モビリティセンター」を設置し、移動に関する情報提供(ルート・運賃・観光・乗継等)や相談を行ないました。

モビリティセンター

マイ時刻表

③レンタサイクルを行い、近郊移動の利便性を体験してもらいました。また、まちなか観光の移動手段として利用してもらいました。

レンタサイクルセンター

駅前ひと気朝に自転車で…

④福井市の都市交通計画や環境関連のパネル展示を実施しました。

市役所1階

モビリティセンター

「バスの乗り方教室」

子どものうちからバスに親しみ、安心して利用できるように、小学生の家族連れを中心に、路線バスの乗り方教室を実施しました。

ピントンと一緒に乗車体験

車椅子での乗車をサポート

「公共交通に関するシンポジウムとトークショー」

公共交通の楽しい使い方や楽しみ方のシンポジウムとトークショーを開催しました。

シンポジウム&トークショー

中高校生の作文表彰式

「かしこいクルマの使い方や公共交通に関する作文」

中学生や高校生から作品を募集して、シンポジウムやトークショーの会場で発表・表彰しました。

「カーフリーデー」

9月22日をカーフリーデーとして、1日クルマのない環境とし、普段の空間との違いを体験し「クルマと地球環境」について考える日です。アップルロードに車が通らない空間(カーフリーデー・りんりん広場)を創り、開放的な空間を体験してもらいました。

公認3人乗り自転車や電動アシスト自転車試乗会

カーフリーデーりんりん広場

クルマの過度の使用を控え、公共交通や自転車の乗車体験を通じて、自分たちの気づきによる行動によりCO2削減につなげていきます。

NPO法人　ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

３－４　ＭＷ＆ＣＦＤ日本アワードを通した情報発信

カーフリーデージャパンは、モビリティウィーク＆カーフリーデー2009 において、移動に関する様々な問題を考える機会を市民へ提供し、新しい都市交通政策の展開を進展させるため、「モビリティウィーク＆カーフリーデー日本アワード 2009」として、以下を目的として、

・各団体が行うモビリティウィーク&カーフリーデーについての取組を讃えます
・ 各団体の取組の評価を行うことで、今後の取組への更なる意欲昂進に期待します
・日本におけるモビリティウィーク&カーフリーデーの質的向上をねらいます
・他団体や一般市民の関心を集める機会とします

まちづくり貢献賞、イベント・プロジェクト賞、市民向けアピール賞、カーフリーデーベストショット賞を設け実施しました。ＲＯＢＡの活動は「まちづくり貢献賞」を受賞しました。

http://www.cfdjapan.org/index.html

受賞団体

1．まちづくり貢献賞
　・モビリティウィーク＆カーフリーデーふくい 2009 実行委員会
2．イベント・プロジェクト賞
　・なごやカーフリーデー協議会実行委員会
3．市民向けアピール賞
　・松本市ノーマイカーデー推進市民会議

審査委員

委員長　太田勝敏（東洋大学国際地域学部教授、東京大学名誉教授）
委員　　上岡直見（環境自治体会議 環境政策研究所）
委員　　望月真一（EMW 日本担当コーディネーター）

審査結果について

審査会は、平成21年12月25日に、カーフリーデージャパン事務所内にて行われました。
「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2009」各賞の受賞理由、講評の概要は、以下の通りです。

1.　まちづくり貢献賞

受賞：モビリティウィーク＆カーフリーデーふくい 2009 実行委員会

受賞理由：
モビリティウィーク＆カーフリーデーふくい 2009 実行委員会は、NPO でありながら、他 NPO、市民団体、交通事業者等企業と協力し、モビリティウィーク一週間において、「徒歩の日」「自転車の日」「バスの日」など毎日テーマをもうけ、クルマに頼らない交通行動やエコライフの啓発活動に努め、各種取組みを行ない、沢山の市民の参加が得られた。特に、今年は、FBC 福井放送と連携して環境省 CO2 削減イベント広報支援事業に応募し、MW&CFD の CM を作成・放映したことや、中高生へ「クルマと公共交通のかしこい使い方」作文コンクールを実施するなど、幅広く啓発活動に貢献したことを高く評価した。

他応募団体（市）：名古屋市、那覇市

講評：名古屋市、那覇市両市ともに、今年も実施内容が高く評価されたが、行政としてより一層、都市交通政策の展開に結びつけてもらいたいという期待を込めて、今回、対象外とした。モビリティウィーク＆カーフリーデーが総合的な都市政策の展開に有意義に活用されることを、来年度以降期待したい。

３－５　メディアとの連携支援事業によるマスコミを通した情報発信

平成２１年度　地球温暖化防止に係る国民運動におけるＮＰＯ・ＮＧＯ等の民間団体とメディアとの連携支援事業

ＲＯＢＡ
（目的・ねらい）
子供達が将来の交通社会を考える動機付けをしていく。
環境問題を都市交通の面から考える。
（活動概要）
「公共交通社会」の作文を中高生から募集。
「モビリティウィーク＆カーフリーデー」イベントの実施。

マスコミ
（目的・ねらい）
活動の中心である中高生からの作品募集、およびイベント参加の呼びかけ。
中高生のメッセージを発信し県内全体を巻き込んだ活動にしていく。
（活動概要）
中高生からの「公共交通社会　作品募集」および「イベント」を「テレビスポット CM、ラジオスポット CM、ラジオカー中継」などで支援。
受賞した中高生の作品やアイデアを「テレビ特別番組、ニュース取材放送」しイベントに参加していない方たちにも温暖化防止行動を促す。
中高生がメッセージを発信する「テレビラジオスポット CM 啓発キャンペーン」を実施して県内全体を巻き込んだ運動にしていく。

中高生がメッセージを発信する「テレビ・ラジオ啓発スポットＣＭ」

２、「中山出演　篇」

【ＣＭコメント】
「電車は二酸化炭素排出量が少なく地球温暖化防止に役立っています。福井の誇り路面電車を未来に残そう。」“使って残そう公共交通。ＬＯＶＥ・アース・ふくい”

◇作品（作文・小論文）募集　支援および広報（作品応募増を支援）

①「作品応募告知」スポットＣＭ　*＊情報発信素材１、４参照*

・「公共交通利用向上のアイデア」作品募集告知を制作、放送

スポットCM放送期間（８月１３日～８月２８日）

テレビ１５秒CM－５０本　ラジオ２０秒CM－５０本

◇イベント全般についての支援及び広報（イベント参加者増を支援）

②「イベント開催告知」スポットＣＭ　*＊情報発信素材２、５参照*

・「モビリティウィーク＆カーフリーデー」イベント告知を制作、放送

テレビ１５秒CM－５０本　ラジオ２０秒CM－５０本

放送期間　９月１０日～9月１９日

ＣＭでは「イベント参加の際は公共交通機関を利用」を訴える。

１）テレビCM①

種　　別：テレビ１５秒スポットCM

タイトル：モビリティウィーク作品募集　告知

発 信 日：平成２１年８月１３日～８月２８日

【CMコメント】

「モビリティウィーク・カーフリーデーふくい　作品募集！」「地球環境にやさしい公共交通社会」をテーマに中高生からの作文を募集しています。マイカーの利用を控え環境にやさしい交通を目指しましょう。詳しくはＦＢＣで検索。

③ニュース取材

・イベント実施前や期間中に夕方ニュース「リアルタイムふくい」で、イベントの予定や模様を取り上げ。

④ラジオカー中継　*＊情報発信素材８参照*

・イベント会場よりラジオカーで生中継リポートを放送

放送日　イベント開催期間中　５分×3回

９月１９日（土）１０：２５～

９月１９日（土）１３：５０～

９月２１日（月）１３：３０～

◇イベント実施後の支援及び広報

作品受賞の中学生・高校生にスポットを当て展開し県内全体を巻き込んだ運動に

⑤テレビ特別番組（３０分）

・「公共交通利用向上のアイデア」を受賞した中高生を取材し実際の活動を紹介

・「モビリティウィーク　シンポジウム」の模様を紹介

・「モビリティウィーク　イベント」の模様を紹介

・放送日時　９月１９日（土）１６：３０～１７：２０「イケてる福井」

⑥テレビ番組「ヒトエキ」の制作、放送（5分×８回）　***＊情報発信素材７参照***

・放送内容　「公共交通利用促進」を訴えるため県内の鉄道沿線の魅力紹介

　駅周辺の観光、グルメ、えちぜん鉄道のアテンダント、鉄道の楽しい利用の仕方　等々

・放送枠　土曜１１：４０～１１：４５

・放送日程　10/17～12/5　の毎週土曜　合計８回放送

７）テレビ番組

種　　別	テレビ番組　５分×８回
タイトル	「ヒトエキ」
発 信 日	平成２１年１０月１７日～平成２１年１２月５日　毎週土曜日

【ヒトエキ　第１話】

⑦中学生・高校生による「未来のふくい交通」提言　啓発スポットキャンペーン

・内容　「公共交通利用向上のアイデア」作品受賞者（中高生）が出演するＣＭ

　→中学生、高校生がＣＭを通してメッセージを発信

　３人の中高生が出演し、それぞれテレビ、ラジオCMでメッセージを発信

・放送期間　１２月２３日～1月３１日

・放送本数　**テレビ１５秒CM－１５０本　ラジオ２０秒CM－１２０本**

【活動により期待される効果】

　メディアが支援することにより、イベントに参加しない人達もテレビやラジオを通して啓発を受けて行動につなげていく。またＣＭだけではなく「ニュース」で取り上げることにより、県民の信頼性がより増していくことが期待されます。

　イベント終了後も「テレビレギュラー番組」「啓発ＣＭキャンペーン」を放送することで公共交通利用の具体的なイメージができる。子供達が自分事化してＣＭに出演しメッセージを伝えることで、大人も“気付きのスイッチ”が入りやすく県全体を巻き込んだ運動になったと感じています。

第４章　研究・活動の事後評価と課題

４－１　ＭＷ＆ＣＦＤの事後評価

事後評価の方法は、事業運営者・参加者による内部評価と、ＲＯＢＡ外部者・交通関係者以外による外部評価で行う。ここでは、内部の事後評価について述べ、外部評価については次章に記載する。

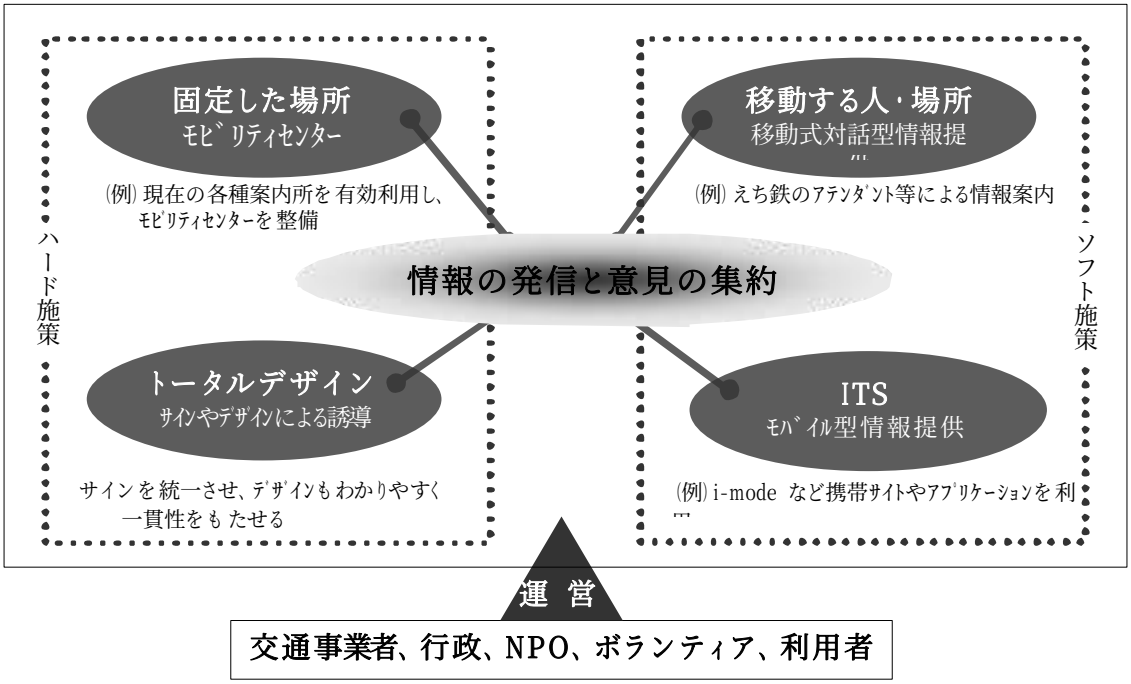
４－１－１　モビリティ・センターの実証の事後評価

（１）モビリティ・センター

【評価】

モビリティ・センターは、今回のMW&ＣＦＤふくい 2009 の主要な事業の一つであり、昨年から以下のような公共交通情報発信と意見の集約の実証のために企画したものである。

ＭＷ＆ＣＦＤの福井駅西口広場に 9 月 19 日（土）から 22 日（火祝）までの 4 日間設置したが、初日を除き、1 日あたり 100 人前後の利用があった。もともと福井駅での公共交通の結節が十分でなく、案内看板・表示も不備であることもあり、きめ細やかな案内は大変喜ばれ、情報発信手段としてのモビリティ・センター、とくに人による案内の評価は高いことが確認できた。



バス・電車案内センター、観光・まちなか店舗案内センターでは、のりのりマップ、地域時刻表、観光パンフレット・観光地図を使って対応。観光客がバスや電車の乗り場を聞いたり、観光地への行き方や、どのルートを選択するのが良いか、越美北線の列車の待ち時間内に回れる市内の観光ス

ポットなどの問い合わせが多かった。

一方、「マイ時刻表」を使っての案内は、個別のニーズに対してきめ細やかな対応ができ大変喜ばれた。また、利用者の要望に対応するなかから、より利用者ニーズに合ったものに改良することができた。具体的には、A地点とB地点が福井駅周辺をはさむ場合に、これまでは別の２つの時刻表を提供していたが、１枚に納めて欲しいという要望に対応することになり、使い勝手が向上することになった。

【今後の課題】

しかし、案内の中で、目的地への適当な公共交通が見当たらない、便数が少なく時間が合わないなど、対応できないことも多く、やむを得ず行先を変更していただくか、中近距離へはレンタサイクルに切り替えて案内するなどして、対応したが、公共交通の充実を痛感させられる案内となった。

また、「マイ時刻表」は、作成に時間がかかるため、あまり時間のない人向けに、既存の「ばすでんしゃねっと・ふくい」で提供している「公共施設アクセス時刻表」の充実を図るなどにより、主要な時刻表を事前に準備しておく必要性を感じた。

【その後の展開】

このうち、まちなか案内については、この後、駅西口広場内に「まちなか案内所」が関連市民団体と行政とにより設置され、モビリティ・センターの一部機能が引き継がれた。

（２）レンタサイクル

【評価】

レンタサイクルは日によって稼働率は違ったが一定の需要があり、常設して欲しいという要望も出ていた。市内観光にレンタサイクルを利用する人が多く、りんりんマップや観光パンフッレット等の配布とは密接不可分である。今回は無料で実施したが、アンケートの結果では 300 円程度の有料であっても自転車を利用するとあり、ニーズがあることが分かった。

とくに、中長距離の移動には、便数の少ない路線のバスに代替できる交通手段として位置付けられることがわかり、バス電車案内センターと自転車案内センター・レンタサイクルを併設することは、有効であると評価できる。

【今後の課題】

これまでは土日祝日での運営であったが、平日の利用ニーズは不明である。常設となれば平日の運営の試行も必要であろう。移動手段として自転車も認識してもらう為には常設が必要であり、今後は常設に向けて検討されなければならない。また、運営主体をどうするか。収入でコストは賄いきれないことから、企業広告、行政の委託等検討していかなければならない。

（３）モビリティウィーク＆カーフリーデーパネル展

【評価】

市役所 1 階会場では担当者を配置していなかったため、来訪者数は不明であるが、準備・打ち合わせで市役所を訪れる度に観察した限りでは、市職員を中心に、また、市役所を訪れた市民も熱心に見ていく人がいた。市職員の中にはメモを取っている人も見られ、啓発、情報提供の目的において、機能したと評価できる。

モビリティ・センター会場では、台風の影響で 19 日から 21 日まで、3 日間、突風が吹き荒れ、最終日は時折雨がぱらついた。そのため、突風でパネルが飛ばされ、破壊し、架台も破損したものが多かったことから、何度も緊急退避を余儀なくされた。全体に風との戦いであった。

初日を除き、1 日に 100 人前後がモビリティ・センターを利用しており、天候さえ良ければ、もっと多くの市民に見てもらえたはずであり、そうならなかったのが残念である。場所を変えて再度パネル展をやりたい。

しかし、掲示している間は、熱心に見ていく人も居られ、モビリティ・センターの設置とともにパネル展示をすることの有効性は十分評価できる。

【今後の課題】

パネル展来訪はその内容を事前に察知して見に行く人と、偶然通りかかった人にわかれるが大多数は後者であろう。不特定多数の市民に訴えるためには、視覚的なアピールがいちばんである。ともすれば、伝えたいことを文字にしたいがために文字が多くなりがちだが、視覚的なアピールポイントを絞り、惹きつける画像などを用いる必要がある。また、頻度を上げなければ市民の目に触れない。定期的なパネル展（図書館など公的な場所も視野に入れて）の開催も課題である。

（４）自転車展示・試乗会

【評価】

会場では、3 人乗自転車や電動アシスト自転車などの試乗を通じてマイカー依存となっている生活を変えるための手助けとして来場者への情報提供に一役買った。3 人乗自転車は子育て中の母親を中心に実際に子どもを乗車させる体験を通じて環境問題への意識喚起につなげることができた。電動アシスト自転車は 60 歳前後の方の引き合いが多く、運転のし易さを実感したりしてマイカーから自転車へのシフトが期待された。

また、小学生向けに行った自転車のルール・マナークイズは同行した親にとってもその再確認の機会となった。

【今後の課題】

福井における過度なマイカーの利用実態からすれば、３人乗自転車の関心は低いと言えよう。電動アシスト自転車は、先のレンタサイクルでのラインナップに加えながら利用の促進を進めることが考えられる。自転車の利用促進には自転車の走行環境の改善も併せて進めなければならない。

４－１－２　公共交通事業者との連携の事後評価

実行委員会では MW&CFD におけるバス電車の一体的運賃の提案を行い、その実施に向けた取り組みについて協議を進めた。各事業者とも運営システムへの取り組みの必要性を理解し、積極的な議論を進めたものの、カーフリーデー２００９で実際に実施できた内容はその一部にしかすぎなかった。しかし、今回の取り組みは運賃に限定したものであり、乗継に関しては実行できなかったものの、今後の運輸連合の設立を念頭に置いた第一歩として、十分に評価できるものであった。

また、同時に福井の公共交通体系の課題も明らかとなり、今後の取り組み方針を示唆する議論ができたものと思われる。

普段はクルマを使っているものの、MW&CFD への参加を通じて公共交通の使い勝手の良さを体験してもらえるように、利用者への料金の抵抗感（運賃の割高感とわかりにくさ）を少しでも解消する必要があると考え、実行委員会では最も効果的な取り組み内容について議論を進めた。

○実行委員会での提案と議論

わかりやすい運賃設定、自由に乗り降りできる安くて便利な切符は、利用者にとって状況に応じて途中下車・乗り越し・行先の変更等、自由に利用するために必要なツールである。利用したくないと思わせる「抵抗」のひとつである運賃抵抗を少しでも軽減させ、かつ乗りたい時に何度も乗れ、行動に自由度が増すように、

・バス電車共通フリー切符の設定

・バス全区間フリー切符の設定

を当初の検討案として提示し、実現の可能性について議論を重ねた。

しかし、当初提案のあったバス電車共通フリー切符については、料金の収受や分配方法などについて IC カードなどを使わずに効率よく実施する方法が見つからず断念せざるを得なかった。また、バス全区間フリー切符については最低 200 円、最高 1000 円以上という大きな料金差のある全区間での妥当な料金設定ができず、今後の検討課題として残さざるを得なかった。

○カーフリーデー２００９での実施内容

当初提案に代わる交通事業者としての実行可能なプランとして、子供の利用を促すサービスに絞って料金設定を試みることになり、各事業者もそれぞれの社内で了解を得て、次のような内容で実施した。子ども運賃に限定したのは子どもを公共交通に導くことにより、その親も同行することによる効果を考えたものである。

・電車各社既存フリー切符の子供料金 100 円の実施

えちぜん鉄道１日フリーきっぷ 800 円（子供料金 400 円）、

福井鉄道　１日フリーきっぷ　500 円（同 250 円）、

京福バス 230 円区間１日フリーパス 500 円（同 500 円）　（福鉄バスはフリー切符なし）

を子供料金 100 円に

・バス各社全区間の子供料金 1 乗車 100 円の実施

最低 200 円（子供料金 100 円）、最高 1000 円（同 500 円）以上を子供料金 1 乗車 100 円に

・すまいるバス 300 円は子供料金の設定をしていないため、1 日フリーパスを利用した子供に、モビリティーセンター会場で記念品を贈呈することとした。

このようにして、交通事業者での連携した取り組みを有効に活かすため、利用者にわかりやすいように、9 月 20 日を「バスの日」（全国的イベントとタイアップ）、9 月 21 日を「電車の日」として設定し、それぞれ「子どもとバスミニツアー」「子どもと電車ミニツアー」を呼びかけた。

【交通事業者各社の評価】

実行委員会での議論の段階から、交通事業者の取り組み姿勢には差異がみられた。その理由としては特別料金の申請承認等手続きの難易にかかわるものや、委員会での議論とその後の各社内での議論との調整にかかわるものなど、いくつかあったが、調整の進み具合によって、事前の準備と当日の体制にも差異が生じ、各社の評価もそれを反映している。

このような企画において、交通事業者は担当者レベルの対応だけではなく、初期段階から組織的判断が得られるような委員会運営を行うことが必要だと考えられる。

平成21年9月21日
小児フリー乗車券を100円で販売した枚数

福井駅	53
福井口	2
越前新保	2
永平寺口	2
勝山	11
田原町	1
福大前西福井	1
新田塚	4
あわら湯のまち	15
三国	9
アテンダント	17
合計	117

子供料金の割引という限られたソフト施策ではあったが、共同して取り組む必要性については事業者の理解が得られ、これをきっかけとして、さらなる連携したサービスの充実に向けた取り組みを、今後ともしていきたいという共通認識は得られたと考えられる。

【今後の課題】

今年度は連休を利用して、イベント期間を長くしたこともあり、それぞれの参加団体が責任を持って取り組みやすいように、メインの４日間のそれぞれのテーマを設けて取り組んだ。そのため、それぞれの特色を出した多彩なイベントになり好評であったが、次年度は全参加団体が１，２日間に短期間に集中して、同時にいろいろな公共交通を乗り継いで楽しめるイベントにしたい。その取り組みの中で、スムーズな乗継や、乗り継ぎ支援のための課題となっている事項の解決に取り組み、日常の連携強化への足掛かりとして事業者間のさらなる連携強化を図る必要がある。

４－１－３　イベント前後の情報発信の事後評価

イベント前後の情報発信については、ＦＢＣ福井放送と連携して、環境省の「地球温暖化防止に係る国民運動におけるＮＰＯ・ＮＧＯ等の民間団体とメディアとの連携支援事業」を利用して、実施した。

【ＦＢＣの評価】

テレビやラジオのメディアで告知、紹介したことで作品の応募数や参加者が増加した。特に当初から我々がターゲットとしていた、小中学生、高校生とその家族を巻き込んでいけたと感じています。また、メディアとしても参加した中高生の熱心な姿勢に感化され、中高生が直接メッセージを発信する「啓発スポット」の制作・放送にも力を注ぎ当初予定していたより３倍程度の放送量を実施したことで、イベントに参加されない県民の方々の啓発にもつながった。

【ＲＯＢＡの評価】

今回の取り組みは、メディアの参画なくしては不可能な、高い頻度による、密度の濃い、正確な報道が行われたことにより、ＮＰＯの重要でありながら、地道であるがゆえに広がりを欠きがちな取り組みや啓発・情報発信が大きく取り上げられ、広く市民にアピールすることができた。また、作文・小論文コンテストで受賞した中・高生の出演する啓発ＣＭのような、取り組みとメディアによる報道との連携があったからこそ意味を持った情報も生まれ、コンテスト参加者の心にも、自分たちの参加した取り組みの重要性を深く認識してもらう機会にもなった。

今回の連携を始めるにあたって、ＦＢＣ福井放送は、取り組みの内、何が一番広く市民にアピールし、また、どのような部分が弱点なのかを最初から言い当てた。そして、それにより、取り組みの方向性に若干の修正を加え、取り組みにメリハリを加えることができた。これは、日頃物事を客観的に見て報道しているメディアとの連携だからこそ得られた成果だろう。

通勤や日常生活において、クルマの使用を控える環境行動の効果は、様々な環境行動のなかで特に大きいが、それに関する啓発はなかなか市民に届かない。しかしＮＰＯ・ＮＧＯが地道に情報発信を行っていかなければ、市民への普及が進むこともない。今後、メディアと連携することで、情報発信・啓発が加速されていくことは重要な意味を持っている。ＮＰＯ・ＮＧＯとメディアが連携する枠組みがまず存在することで、それぞれが単独で取り組むことよりもはるかに大きな情報発信と啓発のダイナミズムを創り出せる可能性がある。

４－１－４　公共交通のあり方を考える取り組みの事後評価

（１）公共交通に関するシンポジウム・トークショー

【評価】

地図研究家・今尾氏による講演は、北陸の 3 都市（福井、金沢、富山）の歴史的な街の形成と鉄道を中心とする公共交通の成り立ちの解説の後、マイカー依存の生活から離れ地図に現れた路線をたどる鉄道を中心とする移動の魅力を説明しながら、マイカーからのモーダルシフトが環境面から大切であるとした。これら公共交通に対する基本的な認識が広がることで、その後の行動変容につながっていくと期待できる。

トークショーでは、日常の 200～300Mの移動でさえ何の疑問もなくマイカーで行なわれている実態や、公共交通を使いたいが、運行本数や終電、乗り継ぎの便などの理由で使えない実態などが報告された。そのなかでラジオパーソナリィ阿部氏から、ラジオ番組を通じて寄せられた聴取者からの生の声が報告され、環境問題やまちづくりの観点から公共交通の必要性を訴えたものなどが紹介された。

【今後の課題】

このように、今回のイベントは来場者への啓発だけではなく、事前にラジオ番組を通じて聴取者との公共交通についての意見交換がなされるなど、市民の心に気づきをあたえる機会を増やすことなどの取り組みが行われ、参加者数以上に高く評価できるものとなり、今後のシンポジウムのあり方を考えるうえで大いに活用していく必要がある。

（２）かしこい公共交通の使い方に関する作文

【評価】

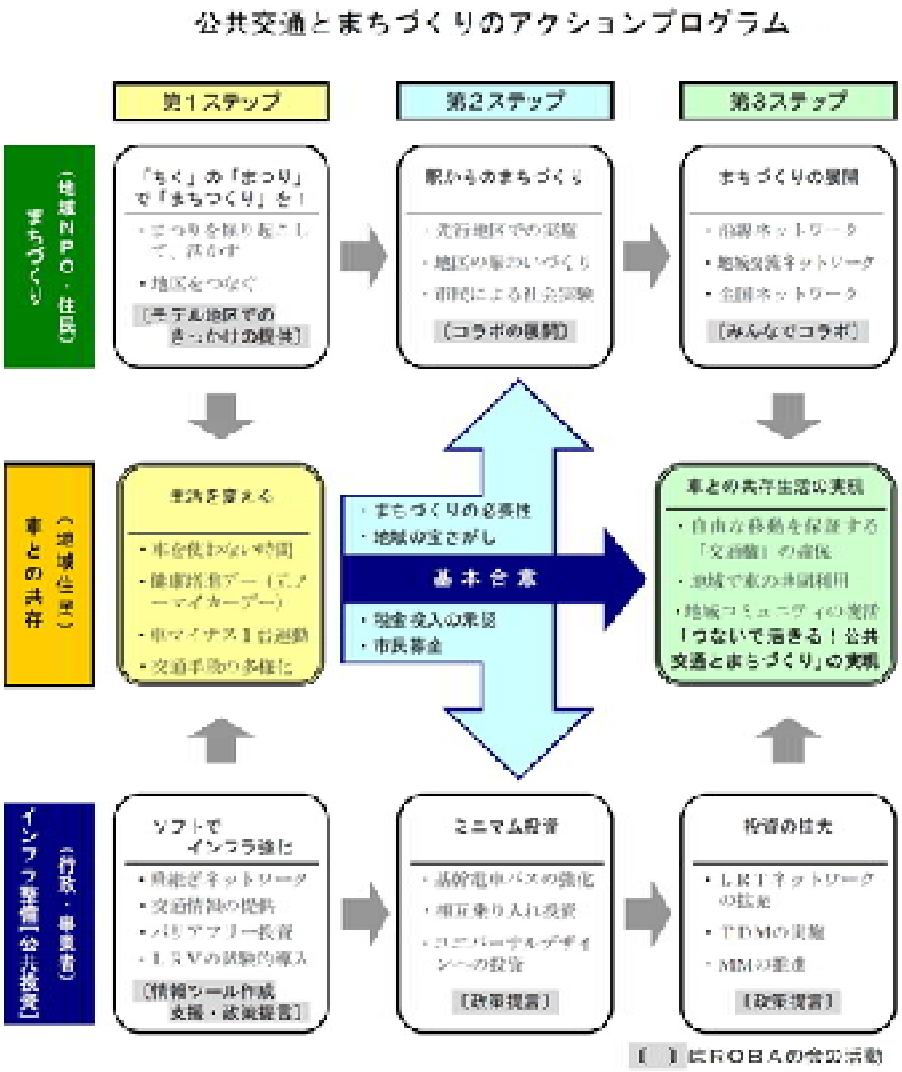
「かしこい公共交通の使い方」という題目で中高校生を対象に、作文・小論文の募集をかけたところ約 680 通の応募があった。このことは 680 人、さらには 680 の家族に対し、クルマと公共交通について向きあっていただいたことになる。また、入賞６作品、大賞１作品の作品集を製本化して参加された学校に一定数を贈呈する予定である。作品募集、当日の会場、その後の報道、作品集の作成により多くの人の目に触れることになり過度に依存した車社会への問題提起としての大きな効果になった。とくに、ＦＢＣ福井放送を通じて行われたスポットCMは、これらの取り組みによって幅広い人への啓発となったと評価できる。

【今後の課題】

今後、中高校生は自動車免許を取得し、マイカーを使用することになるが、この段階で自己啓発としての「かしこい公共交通の使い方」あるいは「かしこいクルマの使い方」を学ぶことは将来のＣＯ2 削減に影響を与える有効な取り組みと考えられ、高く評価される。

【テーマの総合評価】

公共交通のあり方を考える取り組みは、以下の「公共交通とまちづくりのアクションプログラム」に沿ってこれまで継続的な取り組みをしてきており、今回の中高生を対象にした取り組みは、地域住民への啓発活動という位置づけの中でも、かなり重要な位置を占めることがわかり、対象者別の多様な取り組み展開のきっかけとなるものであったと評価できる。



４－２　ＭＷ＆ＣＦＤから見えてきた福井の公共交通体系の課題

のりのりマップを使ったきめ細かな案内や、利用者のニーズに合わせたマイ時刻表をその場で作成し無料で提供する具体的な取り組みは、利用者に評判もよく大きな効果を上げたと考えられる。しかし、案内すべき適当な交通手段や交通システムが見当たらず、特に交通結節拠点としての福井駅の機能不足等、モビリティセンターとしての限界を感じた。

それを補ったのがレンタサイクルであり、特に中距離の移動交通需要への柔軟な対応ができた。しかし残念ながら福井では宿泊を伴う観光や、中長距離の移動を伴う観光需要は少ない。反面、福井駅を中心とした食べ歩きや近郊観光の便利な移動ニーズは比較的多い。これらのニーズに的確に対応することにより、利用者のリーピートを通じてその拡大を図りたいところである。

また今後の課題として、これらの交通案内を通じて明らかとなった連立や、駅前広場の開設が十分活かしきれていないハード面での不備についての現状を早急に打開し、新幹線整備や駅西口再開発事業を待たずに今でもすぐにできる、ハード面での対応策などを提案していく必要があると感じた。

○モビリティセンターでの案内の限界

・案内すべき適当な交通システムが見当たらないケースがあった
　それを補ったのがレンタサイクル

・案内すべき交通結節拠点としての福井駅の機能の不足
　ハード機能：バス電車の乗り場がそれぞれに離れてしまってバラバラであり視覚的なサインも欠如
　ソフト機能：乗り継ぎに対する不便さ
　　：乗り継ぎ時間と料金の案内、乗り場の案内、帰りの時刻や運行本数の案内

第５章　今後の活動の展開方向

５－１　ＭＷ＆ＣＦＤを踏まえた今後の活動方針

●ＭＷ&ＣＦＤを踏まえた活動の方向性

福井都市圏では、近年、クルマ依存がますます顕著になりつつあり、それが商業施設や公共施設の郊外移転を誘発し、それがさらに市民生活や経済活動におけるクルマ依存を助長して、都市の構造を大きく変えてきた。その結果、公共交通が衰退し、福井都市圏はここ 10 年で京福電鉄、福井鉄道の２つの鉄道の存廃問題に直面し、バス路線も運行頻度や路線数を大きく減退させた。鉄道については、福井都市圏の地域社会は存続という結論を選択したが、それでクルマ依存という市民の意識や経済活動に何らかの根本的な修正が加えられたわけではない。

平成 17 年行われた福井都市圏パーソントリップ調査ではクルマの輸送分担率が 76.6%に達する一方、鉄道の輸送分担率は 1.7%、バスの輸送分担率は 0.8%にとどまった。平成元年の前回調査時点に比べ、クルマは 15.4 ポイント上昇し、鉄道は 0.6 ポイント、バスは半減となる 0.8 ポイント下落という結果となった。

そのため、鉄道の活性化、LRT の導入による公共交通ネットワークの再構築、バスの利便性向上などのハード的施策の必要性が明白となったと同時に、ソフト的施策を先行させ、それによる啓発も行い、状況の改善を図り、それに続くハード的施策実施のコンセンサス形成を図る必要が生じている。それに当たっては、行政、公共交通事業者、市民が一体になって取り組む必要があり、受け身の市民参加から、むしろ、より積極的な市民主導へと変わっていくことが求められている。

モビリティウィーク＆カーフリーデーは、今年で 3 年目の実施となる。行政主導ではなく、公共交通事業者や NPO が一体となって開催し、さらに、環境省のメディア連携事業への採択が実現したことにより、マスコミと広範囲な連携を行うことができ、それによってこの取り組みを多くの市民に知らせ、啓発することができた。

モビリティ・センターは１日あたり 100 人前後の利用があった。この取り組みはマスコミの報道で大きく取り上げられ、福井市が実際の設置を検討するとの報道もあった。今後もこの件に関し情報発信を行うことで、行政による実施計画の明確化を図っていきたい。

モビリティウィーク＆カーフリーデーふくい 2009 の取り組みはマスコミを通して多くの市民に向けて報道され、多くの市民に認識された。この活動の精神は他の団体の市民活動にも波及していく可能性を持つものである。現に、11 月から翌 2 月にかけて、他団体がモビリティセンターと同じコンセプトを持つ案内所を駅西口に設置する計画を進めている。それについては、適切な取り組みがなされるよう見守ると同時に、この活動の本質につき、今後も必要な情報発信を継続していくこととしたい。

なお、修正する必要のあるところは修正し、次年度以降の取り組みにつなげていきたい。

とくに、子供や中高生に焦点を当てた取り組みは、評価が高く今後の活動の焦点となる

●次年度以降の活動方針

○モビリティセンターでの案内の限界を踏まえた今でもできるハード対応策の提案
・案内すべき適当な交通システムが見当たらないケースがあった（それを補ったのがレンタサイクル）
・案内すべき交通結節拠点としての福井駅のハード機能の不足
：バス電車の乗り場がそれぞれに離れてしまってバラバラであり視覚的なサインも欠如
・連立が完成してから、それが十分に活かされていない
：えちぜん鉄道踏切の社会実験信号化による交通環境などの改善提案
・福井駅西口広場への大規模バス停の開設による交通結節機能の強化の提案
：早期のえちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れの実施

以上のハード対策の提案を、今後の活動方針とすべきである。

○モビリティセンターでの案内を踏まえた今でもできるソフト対応策の提案
・案内すべき交通結節拠点としての福井駅のソフト機能の不足
：乗り継ぎに対する不便さ：乗り継ぎ時間と料金、乗り場の案内、帰りの時刻や運行本数

以上の事柄は、他の都市でも同様であると考えられ、コミバスなどの乗り継ぎ体験を通じて、その実態を実感したうえで、より良い改善策についてアドバイザーを交えて研究し、地域の人たちや行政との意見交換を通じて、提案していくことを今後の活動方針とする。

○これまでの活動で積み残してきた課題への取り組み
・バス・鉄道乗換拠点の明確化とハード・ソフト対策の提案
・現在の放射状路線を補完するための乗換・乗継対策の提案

○長期的視点から見た課題への取り組み
・公共交通ネットワークとしての付加価値向上
福井鉄道と、えちぜん鉄道を軸とし、鉄道とバスの連携輸送を行う公共交通ネットワーク（広義のＬＲＴ）としてのサービスの付加価値を高めるための取り組みを行う。

５－２　検討懇談会による外部評価を踏まえた今後の展開方針

研究活動の概要がまとまった段階で、今回の研究・活動の報告会と、研究・活動の「外部評価」という位置づけも兼ねて、検討懇談会を実施した。そこでは、今回の研究・活動を含めたこれまでの ROBA の「公共交通を活かしたまちづくり活動」を振り返るとともに、現在の到達点を見極め新たな活動の出発とするために、数多くの助言や提案を参加者からいただくことができた。

議論形式：参加者によるディスカッション

議論内容：福井における市民への公共交通啓発活動の展開方向及び ROBA の役割

・ROBA 主体の取り組み

・行政・事業者との連携による取り組みにおける ROBA の役割

□検討懇談会出席者

福井市都市戦略部交通政策室（2 名）、えちぜん鉄道（2 名）、福井鉄道、京福バス、まちづくり福井、FBC 福井放送、福井市環境パートナーシップ会議、福井大学教授・准教授・学生、地域環境研究所、都市化公室（光多長温理事長、今野修平評議員）、ROBA（10 名）の総勢 25 名

■重要な指摘事項と課題

懇談会参加者からは、ROBA の取り組みあるいは関係団体との連携した取り組みに対して、数多くの助言や提案を参加者からいただくことができた。それをテーマごとに整理すると以下のようになる。

【市民の理解を得るための取り組みについて】

・実行委員会でのＲＯＢＡからの提案が、今回の子供に注目した取り組みの気づきとなった。小学 3, 4 年の教科書から鉄道のページが消えており、今後とも子供に焦点を当てた取り組みが欠かせない。

・公共交通から子供やファミリーの姿が消えている。高速道路 1000 円の影響が出ているようだ。子供を対象とした今回の取り組みは、京都での子供無料の取り組み事例などもあり、今後とも重要だ。

・公共交通に親しんでもらうための取り組みとして、無料バスは 50%増の効果があり、子供たちにつられての利用、商店街との連携による利用などにも効果が見られ、今後の取り組みの参考に。

・料金についてはＰＲの方法など参加者の増加を伴うよう、充分な議論を重ねて取り組む必要がある。

・子どもだけでバスや電車に乗せるのは怖いと考えている親にとって、バスの乗り方教室は好評であった。今後とも、このような機会を増やすべきだ。

・中高生の作文は、応募されてきたものだけでなく、その背後にある家族や友達との話し合いなども重要であり、とても有効な取り組みだった。

・パーソナリティの取り組み方、つまりラジオ番組でのイベント前での意見募集、事後の結果報告などは、今回非常に効果があった。

・マスコミを使ったＰＲは、今回は助成を受けて取り組んだが、次回以降は助成のないかなでの取り組みとして、「企画ニュース」への共同取り組みなどを検討すべきだ。とくに、環境への取り組みは今回も含めて、重要なテーマとなる。

・ＣＯ2 の排出量がどれだけ減るのかも、合わせて算出するといいのではないか。

【より多くの市民と一緒に考える幅広いまちづくり活動について】

・市民啓発というより、一緒に考えてみる、一緒に使ってみることなどから、今後の方向性を見つけていくことはできないか。たとえば「交通社会のデザイン」を、公共交通を使わない人にもまちのデザインとしてかかわってもらい、公共交通に関わってこなかった人にも関われる仕掛けを作って、関心を持ってもらう。交通だけに特化せずに、いろんなまちづくりに関心のある人も参加できる取り組みが必要だ。

・これまで路面電車やバスなど公共交通のあり方に軸足を置いて、「交通ＮＰＯ」としてはかなり高いレベルの取り組みはできているとおもう。次の展開としては、「まちづくり」にセットアップして、趣味やマニアの会を打破していく取り組みを行い、裾野を広げていくことが必要だ。

・公共交通事業者間の橋渡しが、TMO，マスコミを加えてできた。まちづくりの仕組みづくりとしても、このような取り組みは評価できる。

・市民サイドから、地域住民主体の行動を起こさせるようなサポートをＮＰＯとして担えないか。

【目標とするモビリティセンター実現に向けた取り組みについて】

・モビリティセンターでの公共交通に対する苦情受付の対応、休日の楽しみ方情報（観光、サービス）の提供の充実が必要だ。また、ネットなどでの事前情報の提供も重要だ。

・モビリティセンターの実現のために、その機能の一部が継承された「まちなか案内所」をどのように充実させていくのかは、重要な課題だ。

・理想と考えるモビリティセンターの実現のために、もう少し頑張れないか。きめ細かさに欠けるところがあるようにおもえる。

・モビリティセンターとして、まちかど案内所、観光案内所、バスチケットセンターなどが分散してしまっており、今後の大きな課題だ。

・モビリティセンターでのＲＯＢＡの情報発信力はすごい。ただ、発信に力が入りすぎて、疑問や不満を聞き取る部分が不足しているように思う。利用者ニーズを把握するせっかくの機会を活用すべき。

・案内はハードとソフト、ネットワークと案内がある。迷ってしまわないためには、統一サインが必要ではないか。

【公共交通システムの提案の充実について】

・ハードの提言は、実際に具体的な動きとなっておらず、市民ベースからの後押しをするまでには至っていない。もうひと頑張り必要だ。

・ＬＲＴ提言にも継続的に頑張ってほしい。

・ハードの整備へのかかわりをもう少し持てないか。

・政策提案もよいが、行政や事業者がハードを整備したくなるような、市民の声を広げるような取り組みができないだろうか。

・NPO としてはかなり最大限に近い活動ではないかと感じており、活動の限界も見えてきているのではないか。今後、LRT をどのように動かしていくかにこだわるなら、市民参加型の第 4 セクターを目指

すのもよいだろうし、また、まちづくりを動かす活動に主体をおくのもよいのではないか。

・ここまでの労力を注いだ活動に敬服している。一方で、公共交通に対して権限を持っていない NPO が何をやろうとしているのか、ビジネスでもなく、どんな意味があるのか、常に厳しくチェックしていく必要がある。それがないと、レンズの焦点が合わなくなってしまうことを危惧している。

【視点を変えた取り組みについて】

・宿泊客が全国的に見ても少ない福井で、どのようにしてそれを増やしていくのかについては、公共交通が果たす役割は大きいのではないか。

・公共交通事業は法律に基づき縦割りで運営しているが、横の連携がないために情報が偏ってしまっていることが問題だ。地域のバス電車が国の縦割りをそのまま受け入れて、そのまま狭いエリア内だけで運営しているが、公共交通だけではたしてこの問題は解決するのだろうか。
たとえば、福鉄とえち鉄が一体的に経営すると、今までとは違った答えが出てくるのではないか。
事例として、銚子電鉄や江ノ電のように鉄道事業法に縛られない経営をすることにより、電車が来ない間の社員の暇な時間を有効活用したようなビジネス（「ぬれ煎餅」や「たいやき」）や寄付活動がうまれ、それが鉄道事業を支えるような事例が出始めている。ROBA も縦割り法律の枠から抜け出して、活動し、提案し、実行することができないだろうか。

・「新しい公」としての公共交通に、福井でも住民参加で取り組めないか。

■外部評価を踏まえた今後の展開方針

①市民の理解を得るための取り組みについて

・子どもや中高生に対する乗り方教室、作文などの取り組みは、今回の活動でも高く評価されており、今後とも重点的な取り組み対象として活動をすすめる。

　つまり、子どもや中高生は、現在は交通弱者で最大の公共交通利用者であり、かつ今後何も対策が施されないとクルマ中心の生活になってしまう超クルマ社会の福井においては、最も効果のある MM（モビリティ・マネージメント）の対象者であること、また同時に、同行する大人に対する公共交通 PR にもつながることが期待される。

・バスの乗り方教室などの乗車体験は、乗車マナーや譲り合いなど社会規範意識の向上につながるなど、公共交通の別の側面を理解してもらうことにつながるため、これまで以上に機会を増やしていく。

・公共交通における子供や環境を対象とした取り組みは、マスコミから広報価値としても高い評価を受けており、今後も連携した広報活動を展開する。

②より多くの市民と一緒に考える幅広いまちづくり活動について

・今後のカーフリーデーにおいては、まちづくりの要素を強めて、これまでの NPO、事業者に、地域のまちづくり活動グループを加えて、一緒に考えながら幅広い取り組みを行う。

・それにより、交通問題解決への取り組みから、交通まちづくりへの取り組み、地域まちづくりへの取り組みへとステップアップする。

・市民が公共交通について考えてもらえるよう、出前フォーラムなどを充実させて、ROBA が研究・活動してきた成果を発表していく。

③目標とするモビリティセンター実現に向けた取り組みについて

・モビリティセンターの具体的な内容については、継続して研究・実践することで、利用者ニーズをさらに収集し、今後の設立に向けて提案していく。

④公共交通システムの提案の充実について

・利用者の立場に立って、利用しやすい LRT（公共交通システム）を引き続き提案していく。
　とくに、連続立体交差事業の完成に伴う効果をいまだに発揮できていない、駅西口広場へのバスターミナル開設、踏切による地域分断の解消など、優先すべきテーマについては「今でもできる公共交通システムの改善提案」をおこなう。

⑤視点を変えた取り組みについて

・NPO として、既成概念にとらわれず、自由な発想で活動し、市民力を発揮していく。

今後の展開方針を体系的に整理すると以下のとおりとなる。

今後の活動方針の体系的整理

■ＲＯＢＡが目指すもの

人に優しいまちづくり⇒車に頼らないホジロバまちづくり

□そのためには何をしなければならないか、何が必要か。どう変わらなければならないか。
変わるためには、まず、協働のまちづくりを行う必要がある

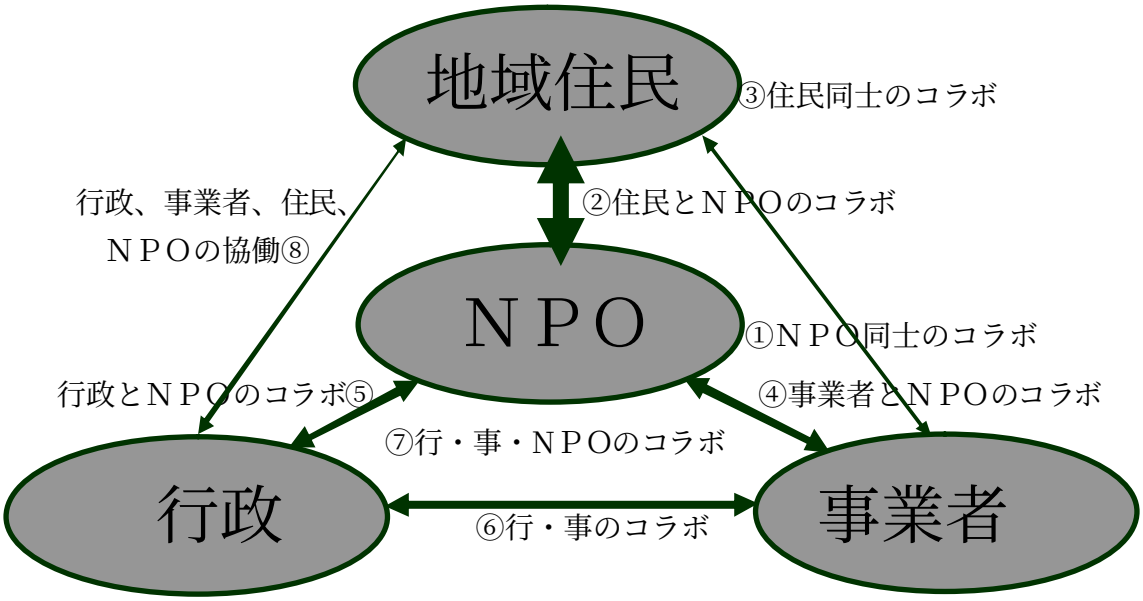
□協働のまちづくりのしくみ

行政、事業者、住民、市民グループの協働のまちづくりのしくみのイメージは、下の図のようになりますが、それにより協働のまちづくりが進められます。

①②③：利用者の意識改革、協働による「乗る」実践活動

④⑤　：行政や事業者との協働による「乗るしくみづくり」の実施

⑥⑦⑧：行政、事業者、住民、ＮＰＯの協働によるまちづくりや「公共投資」の実施
行政の部門を超えた横断的体制（総合支援型施策への転換）
事業者間の協力体制（乗り継ぎダイヤ、情報提供、相互乗り入れ）



協働のまちづくりのしくみのイメージ

□特定非営利活動法人ＲＯＢＡは何ができて、何をしなければならないか。

・滑らかに移動できる公共交通ネットワークの実現を、利用者の立場から提案し、後押しすると同時に、その実現のため、住民に公共交通利用を啓発する活動を行う

・体験・啓発イベントの各社同時開催を呼びかけ、ＲＯＢＡ自体もそのなかで啓発活動を行うことにより、住民に少しずつでも公共交通ネットワークの良さを知ってもらう

・行政・事業者と地域住民の通訳を行い、住民に届いていない情報があれば知らせ、公共交通への誤解を解き、その必要性や使い方、案外使えることに気付いてもらう

■交通まちづくりの体系

□大項目

・都市機能の再生

・鉄道の再評価と公共交通の再生

・新幹線開通を見通した鉄道網の整備と基幹バスの整備

・シームレスな鉄道ネットワークの実現

□中項目

・鉄道とバスの連携（乗継拠点の整備、乗継環境の改善）

・鉄道とクルマの連携（パーク＆ライド、キス＆ライド）

・鉄道と自転車の連携（サイクル＆ライド、サイクルトレイン）

・バスとクルマ・自転車の連携（パーク＆バスライド、サイクル＆バスライド、バスの駅）

・交通空白地域における移動手段の確保

・鉄道と都市計画の連携

・中心市街地の再生（都市機能再集積・公共交通による都市の装置化）

□小項目

・事業者の境界を気にせずに利用できるネットワークづくり

・福井駅の交通結節機能強化

・田原町駅、ベル前駅の交通拠点化

・他、○○駅の交通拠点化

・公共交通ネットワークによる観光地アクセスの組み立て

・サイン、案内、誘導の充実

■ＲＯＢＡの活動の実践（抜粋）

□研究提言系活動

・乗継拠点、乗継環境改善を通じたまちづくり活動

①福井駅前ターミナル化

②田原町ターミナル化・まちづくりの実践⇒ＣＦＤふくい２０１０

③財団法人地域環境研究所と共同研究

④地域バス乗車体験⇒地域バスのあり方について提言

⑤のりのりマップ＆りんりんマップの継続発刊

□イベント系活動

・子供に焦点を当てたイベントを中心に市民に親しみを持ってもらう活動

①事業者（運賃、乗り物）、学生、市民連携イベント⇒ＣＦＤふくい２０１０

②モビリィティウィーク＆カーフリーデーを通じて継続的な啓発活動

③バスの乗り方教室⇒福井県バス協会と協働

④レンタサイクル事業

⑤中高校生対象の作文募集と表彰

⑥小学校への公共交通関連課外授業